

証券コード：9640

SAISON  
INFORMATION  
SYSTEMS  
CO.,LTD.

**第36期中間事業報告書** 平成16年4月1日 ▶ 平成16年9月30日

株式会社 セゾン情報システムズ

# To Our Shareholders



## Contents

ごあいさつ	1
トップインタビュー	2
連結営業概況	5
トピックス	7
特集「ファイル転送ソフトからシステムコラボレーションウェアへ」	9
連結財務諸表	11
個別財務諸表	13
連結財務ハイライト	14
会社概況	15
株式情報	16
アンケート結果	17
ホームページのご案内	18

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当社の事業経営にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、10月の臨時株主総会と臨時取締役会を経て、代表取締役社長に就任いたしました。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、第36期中間期（自平成16年4月1日至平成16年9月30日）の業績についてご報告申し上げます。

当社は、変化の激しい経営環境に対応するため、事業部制により各事業を展開するとともに、全社運動として次代の成長に向けて「ダイナミック・イノベーション」を推進してまいりました。当中間期では、カード系を中心とする大型プロジェクトの成果が上期に前倒しで実現できたことに加え、パッケージ事業の好調な推移があり、売上高および各利益段階で大幅な伸びを達成することができました。今後とも、お客様の信頼に常に応えることができる企業となるべく、経営基盤の強化に努め、皆様方のご期待に沿うよう努力してまいりまいますので、株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年11月

代表取締役社長

宮野 隆

>>>

# Top Interview

平成16年10月15日に代表取締役社長に就任した宮野 隆に  
当社の現状と今後目指す経営についてインタビューしました。

## Q1.>>> 外部から見て当社について、 どのように見ていましたか。

A.>>> 私は情報サービス業界で長く経営に携わってきました。当社については、開発から運用まで一気通貫のサービスを手掛けており、売上規模では中堅ですが、高い利益率を上げていると注目していました。最近では流通分野の苦戦等で売上高は横ばい気味ですがデファクト・スタンダードのパッケージ「HULFT」も持ち、クレディセゾン様等優良なお客様を抱えていることから経営的には安定した会社と見ていました。しかし、現時点では克服すべき経営課題が何点かあり、これを超えるとさらに良い会社になることができると認識しています。

## Q2.>>> 情報サービス業界を取り巻く環境は どのような状況でしょうか。

A.>>> 緩やかな景気回復は継続してはいるものの、情報サービス業界全体の売上は不安定な状況にあります。お客様の情報化投資に対する姿勢は依然として厳しく、特に売上が100億円から300億円程度で従業員数が1,000

人程度の規模の中堅企業が業績面で苦戦しています。大手企業への寡占化が進む中、単純な下請け業務を主体とする企業は生き残ることが難しくなるでしょう。規模は小さくとも専門特化され成長できる企業と成長しない企業の二極分化がより一層進むものと思われます。

また、日本の情報サービス産業はオーバーカンパニーの状態に陥っています。情報サービスの定義が日米で全く同じではないため、厳密な比較ではありませんが、日本の情報サービス産業は、市場規模14兆円、企業数約7,000社、従業員数約56万人です。一方、米国は、市場規模41兆円、企業数約7,000社、従業員数約90万人と企業数がほぼ同じで市場規模が約3倍です。米国との比較において日本の情報サービス産業は企業数が多く、市場が拡大しても企業数は増えない可能性があります。さらに他の業界を見ても近年、さまざまな業界で再編が進んでいます。当社のお客様であるカード業界や流通業界でも再編が進んでいます。情報サービス産業だけでなく、お客様の業界も急速に変化しています。



**Q3. >>> 目指すべき企業像について、お聞かせください。**

**A. >>>** ダーウィンの進化論にあるように、強いものが生き残るのではありません。また、知恵のあるものが生き残るのでもありません。変化に対応できるものだけが生き残ることができるのです。当社も現状に安住したりせず、マーケットやお客の変化に対応するため、我々自身の変化への挑戦が必要となると考えています。それでは、変化に対してどのように挑戦するのかということですが、具体的には「事業の改革」、「組織の改革」、「人事の改革」、「業務の改革」、「企業風土の改革」という5つの改革を推進していきたいと考えています。5つの改革を通じて、できれば現状の倍くらいに業績を伸ばすことにチャレンジしたい、少なくとも業界平均を上回る成長を確保したいと考えて

います。そして、目指すべき企業像として、「お客様から高い信頼を得て、社員が意欲と誇りを持って働ける会社」になりたいと思います。

**Q4. >>> 5つの改革について、具体的にお聞かせください。**

**A. >>>** 「事業の改革」ですが、まず、Bulas事業はマーケット自体は成長しており、当社の認知度も高まっています。収益性の早期改善のため、徹底的な改革を行います。次に流通・サービスシステム事業については、市場環境としては厳しい状況ですが、これまで蓄積してきたノウハウを活かし、さらに営業体制を整備・強化し営業展開を広げていくことで新規顧客開拓などの再成長シナリオを早期に立案して速やかな実行に移りたいと思います。HULFT事業は、当社の稼ぎ頭であり、もっとスピーディに継続的な成長に向けての具体策が必要です。営業体制を専門特化した業種別に変更して、パートナーとの連携をより深め、さらに次に向けての製品開発に対する投資をする必要があると考えています。カードシステム事業においては、主要顧客のクレディセゾン様がカード業界で30%のシェア

アを占有するという目標を掲げられている中で、組織の見直し、人材補強等の体制の強化を行い、カード業界再編の中で当社の優位性を出して良いポジションを狙ってまいります。

これらの「事業の改革」とともに、組織機能の分散化から集中化を図る「組織の改革」、最大の経営資源である人材の育成に注力する「人事の改革」、業務内容やプロセスの抜本的見直しによる「業務の改革」、安定指向ではなく、変化に挑戦する企業風土を醸成する「企業風土の改革」の5つの改革に取り組み、当社を取り巻く激しい変化に対応してまいります。

情報サービス業界におきましても、業界全体の売上動向は必ずしも好調とは言えず、また顧客のIT投資に対する選別化の姿勢は効率面、コスト面の双方で一段と厳しくなるものと考えられ、業界内の優勝劣敗がますます鮮明になるものと思われまます。こうした厳しい経営環境の中、当社は、お客様の信頼に常に応えることができる企業となるべく「ダイナミック・イノベーション」をさらに推進いたします。



# Review of Operations

## 連結営業概況

### ■ システム構築・運用事業 ■ 売上高：10,604百万円（前年同期比20.5%増）

情報処理サービスについては、人事・給与BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）のリーディングカンパニーを目指すBulas事業で新規大手顧客の継続的な取引拡大に成功し、流通・サービスシステム事業では新規顧客開拓を図り一定の成果を挙げたものの、既存顧客向けサービスは減少を余儀なくされたため、売上高は前年同期を下回りました。

ソフトウェア開発については、カード事業における主要顧客のオープンシステム基盤関連プロジェクト等

の大規模プロジェクトの開発の本格化に伴い売上高は前年同期に比べて増加しました。こうした開発の本格化に伴い、当社は専任組織を設置し体制の強化を図っております。

また、システム・機器販売等においては、当該プロジェクトの機器調達に関する受注案件が当初の予定より前倒しで実施されたこともあり、売上高は前年同期に比べ大幅に増加しました。

### ■ パッケージ事業 ■ 売上高：1,966百万円（前年同期比23.1%増）

パッケージ販売については、通信ミドルウェアのデファクト・スタンダードとなった当社の主力商品である「HULFT」において、本年5月には日本IBMと日本HPのストレージサーバーに対応する「HULFT-SAN plus」を、7月にはデータ連携の通信基盤を強化した「HULFT-Message」と「HULFT-DataPass」をリリースし、製品ラインアップの拡充を図るとともに、パー

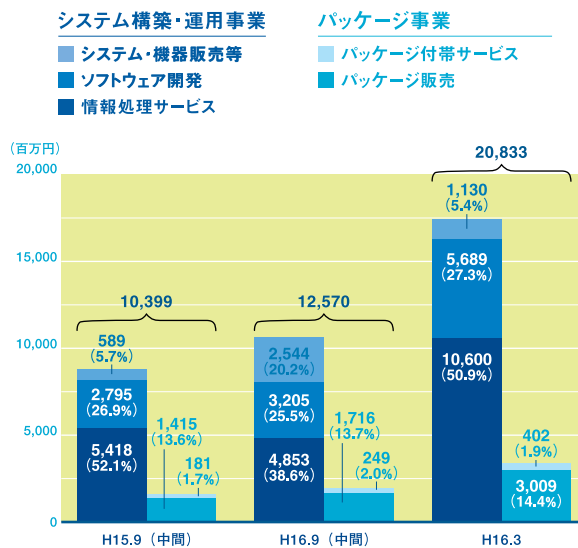
トナー企業との協業推進を図ったことなどにより、順調に売上を伸ばしました。当中間連結会計期間末における販売実績は、累計販売本数約67,000本、導入会社数約3,800社に達しました。

また、パッケージ付帯サービスに関しても、「HULFT」の順調な販売増加に伴い売上高は前年同期に比べて増加しました。

情報処理サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受託計算サービス</li> <li>・運営受託サービス</li> <li>・データ入出力サービス</li> <li>・データ通信サービス</li> <li>・給与業務代行サービス</li> </ul>
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受託ソフトウェア開発</li> <li>・LAN構築、通信システム工事</li> <li>・システム維持管理</li> </ul>
システム・機器販売等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン、ワークステーション、周辺機器等の販売および保守</li> <li>・ソフトウェア製品等の販売および保守</li> </ul>

パッケージ販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェアパッケージ「HULFT」等の開発、販売および保守</li> </ul>
パッケージ付帯サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「HULFT」等に関するミドルウェアソリューションサービス</li> </ul>

## ■ セグメント別売上高



# Topics

## トピックス

### HULFT-Message、HULFT-DataPass

当社の代表製品ファイル転送ミドルウェア「HULFT」の関連製品として、メッセージ単位でデータ転送を行うメッセージキューイングミドルウェア「HULFT-Message」と、既存製品「HULFT-MQA」の後継となるファイル／メッセージ自動連携ソフトウェア「HULFT-DataPass」の販売を2004年7月より開始いたしました。この2製品を組み合わせることで、ファイル転送システムとメッセージ転送システムの連携を行い、シームレス

なシステム構築が可能となります。これを契機に「HULFT」のデータ連携通信基盤をさらに強化し、業務の効率化や、企業内・企業間連携の向上を図るデータ連携の総合ソリューション提供を推進してまいります。



「HULFT-Message」「HULFT-DataPass」  
デモンストレーションの様子

### HULFT Business Solution

2004年9月より経営層の方向けに「HULFT」の優位性をご紹介するHULFT Business Solutionサイトをオープンいたしました。システムとシステムの違いを乗り越えて、企業内・グループ間、そして企業間で自在にシステム連携を実現する、高機能ミドルウェア「HULFT」。現存する業務システムを連結・統合し、最適化することで、大規模なIT投資と同等の効果をお客様の経営にもたらしめます。



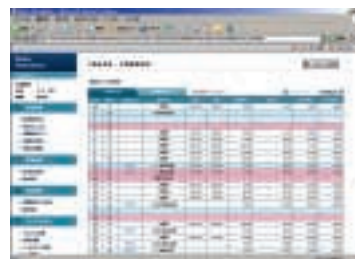
URL : <http://www.hulft-biz.jp/>



## BulasAttendance新バージョンをリリース

人事・給与BPOサービス「Bulas」より、ウェブ勤怠管理サービス「BulasAttendance」のバージョン2.0を2004年4月にリリースいたしました。旧版（バージョン1）においてもインターネット環境さえあれば、場所を問わずウェブ・ブラウザを使用して勤怠情報の入力や承認が可能でしたが、バージョンアップに伴い、初めての方にもわかりやすい画面構成となり、また、督促メール送信を可能とするなど、機能の充実を図りました。この

新たな勤怠管理サービスを含め、「Bulas」では今後もさらにきめ細やかなサービスを提供できるよう努力してまいります。



「BulasAttendance」勤務状況確認画面

## インベスターズガイド作成

2003年度より英語による年次報告書（アニュアルレポート）を作成しておりますが、皆様のご要望とIRツールの充実化のため、この度、日本語版となるインベスターズガイドも作成いたしました。なお、アニュアルレポート、インベスターズガイドともに当社ウェブサイトにてご覧いただけます。

URL：<http://home.saison.co.jp/SIS/ir/tool.html>



# SPECIAL FEATURE

## 特集

## ファイル転送ソフトからシステムコラボレーションウェアへ

**業界No.1シェア\*を誇る通信ミドルウェア「HULFT」。**  
**お客様のニーズの多様化に伴い、HULFTの活躍シーンがますます拡大しています。**

企業内外に点在するさまざまなシステムの連携、取引先や関連会社の増減といった連携先のみまぐるしい変化に対応できるシステムへのニーズが増大しています。

このような状況において、当社の代表製品であるTCP/IP企業内・企業間通信ミドルウェア「HULFT」は、ファイル転送ツールからデータ連携基盤ツールとして、お客様のシステム開発や運用、さらに経営戦略を支援する役割が期待されるようになりました。多様化するお客様のニーズに応えながら進化を続けてきた結果、HULFTの可能性はさらなるひろがりを見せています。そこでHULFTは、拡大するビジネスチャンスを実に確実に捉えるため、新しいコンセプトを掲げその実現に向け開発を進めています。

このコンセプトは、企業内外に存在するさまざまなシステムのあらゆる形式のデータを、お客様は接続形態などを意識することなく、必要なときに必要な形で共有できるようにするというものです。ビジネス状況の大きな変化に伴い、単一の拠点間をつなぐピアツー

ピア型から複雑なメッシュ型の使い方が増え、そして今後は、今まで分散していたデータ連携を集中化して管理するハブ・アンド・スポーク型の仕組みをベースとし、全てのマシンでデータを共有できる基盤を構築します。

そこで、HULFTをはじめとする各種製品をこのコンセプトを構成する重要な要素として「HULFT Family」と位置づけ、これまで以上に、ラインナップの充実へ力を入れています。本年5月には「HULFT-SAN」の対応ディスクを拡張し、日本IBMと日本HPのストレージ製品に対応した「HULFT-SAN plus」をリリース、7月にはメッセージ単位でファイル転送を行うメッセージキューイングミドルウェア「HULFT-Message」とファイル/メッセージ自動連携ソフトウェア「HULFT-DataPass」をリリースしました。さらに、10月にはHULFT関連製品の「HULFTデータ変換Ver.6」と「HULFTデータ変換ProVer.6」をリリースしました。

また、HULFT Family製品と親和性の高い他社のパッケージソフトウェアやシステムとの連携を積極的に



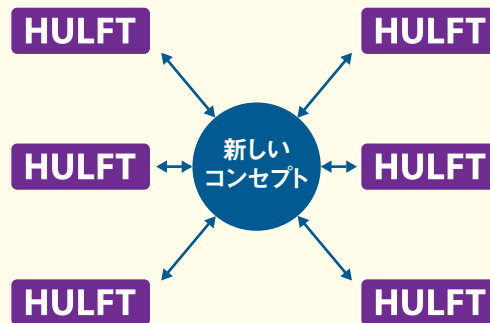
進め、運用管理、電子帳票、EDI連携、セキュリティなどの分野で、統合ソリューションのラインナップが広がっています。さらに、既定の概念にとらわれず、HULFTが活躍できる新しいフィールドに果敢に挑戦しています。その挑戦の一つに、他社の協力を得て、HULFTの通信プロトコルをハンディターミナルやプリンターなどの製品へ搭載する取り組みを始めています。新しい市場へ挑戦することで新しいお客様の開拓を進め、すでにHULFTをご利用されているお客様へはHULFTの新しい活用例をご提案できると考えております。

2004年9月末現在では、導入社数約3,800社、販売本数約67,000本となり、売上高は二桁成長を続けています。ファイル転送の分野だけでなくデータ連携基盤のデファクト・スタンダード、システムコラボレーションウェアHULFTとして、今後も、お客様のビジネスにおける情報共有化と戦略的活用をさらにスピーディ、かつ低コストで実現し、ビジネスチャンスの拡大に貢献してまいります。

#### 〈ピアツーピア型〉



#### 〈ハブ・アンド・スポーク型〉



\* 出典「2004パッケージソリューション・マーケティング総覧」  
(2004年6月) 富士キメラ総研

# Consolidated Financial Statements

## 連結財務諸表

### ■ 流動資産

流動資産は期首と比べ2,375百万円増加し、12,357百万円となりました。これは主に売上高の増加に伴う売掛金、たな卸資産の増加によるものです。

### ■ 固定資産

固定資産は期首と比べ81百万円増加し、5,170百万円となりました。これは主に固定資産処分損によるソフトウェア資産の減少と敷金の増加が相殺されたことによるものです。

### ■ 流動負債

流動負債は期首と比べ2,135百万円増加し、6,546百万円となりました。これは主に売上高の増加に伴う買掛金の増加によるものです。

### ■ 固定負債

固定負債は期首と比べ207百万円減少し、3,007百万円となりました。これは主に退職給付引当金の減少によるものです。

### ■ 資本の部

資本合計は期首と比べ529百万円増加し、7,974百万円となりました。これは主に中間(当期)純利益の増加による利益剰余金の増加によるものです。

## 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前中間連結会計期間末 (平成15年9月30日現在)	当中間連結会計期間末 (平成16年9月30日現在)	前連結会計年度末 (平成16年3月31日現在)
<b>■ 資産の部</b>			
流動資産	9,081,191	12,357,663	9,982,561
現金及び預金	4,744,818	4,746,794	4,985,844
受取手形及び売掛金	3,114,149	5,104,291	3,428,599
有価証券	—	400,036	—
たな卸資産	560,885	1,349,353	793,182
その他	661,338	757,187	774,934
固定資産	5,264,859	5,170,543	5,088,796
有形固定資産	1,462,182	1,190,623	1,370,135
無形固定資産	1,119,676	525,499	847,733
投資その他の資産	2,682,999	3,454,420	2,870,927
資産合計	14,346,051	17,528,207	15,071,357
<b>■ 負債の部</b>			
流動負債	3,784,862	6,546,626	4,411,594
支払手形及び買掛金	1,831,539	4,078,268	2,131,609
未払法人税等	332,602	548,676	390,517
その他	1,620,720	1,919,681	1,889,468
固定負債	3,104,760	3,007,291	3,214,625
退職給付引当金	2,776,267	2,722,116	2,851,615
その他	328,492	285,175	363,010
負債合計	6,889,622	9,553,918	7,626,220
<b>■ 少数株主持分</b>			
少数株主持分	—	—	—
<b>■ 資本の部</b>			
資本金	1,367,687	1,367,687	1,367,687
資本剰余金	1,461,277	1,461,277	1,461,277
利益剰余金	4,566,381	5,058,885	4,430,578
その他有価証券評価差額金	62,030	87,386	186,540
自己株式	△947	△947	△947
資本合計	7,456,428	7,974,288	7,445,137
負債、少数株主持分及び資本合計	14,346,051	17,528,207	15,071,357

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。(以下、同様の表記)

## ■ 売上高

システム構築・運用事業においては前年同期比20.5%増、パッケージ事業において前年同期比23.1%増となり、総計で前年同期比20.9%増の12,570百万円となりました。

## ■ 営業利益・経常利益

売上原価は前年同期比で増加しましたが、売上の大幅増にも関わらず販売費及び一般管理費を抑制することができたため、営業利益は前年同期比44.4%増の1,414百万円、経常利益は前年同期比42.8%増の1,431百万円となりました。

## ■ 中間（当期）純利益

固定資産処分損および「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく減損損失等の特別損失447百万円を計上しましたが、株式売却等による特別利益を254百万円計上し、中間（当期）純利益は前年同期比99.9%増の767百万円となりました。

## ■ キャッシュ・フローの状況

営業活動の結果増加した資金は771百万円であり、増加要因はシステム・機器販売等の仕入債務の増加等であり、減少要因は売上増に伴う売上債権の増加、ソフトウェア開発の仕掛品増に伴うたな卸資産の増加によるものです。投資活動の結果減少した資金は888百万円であり、減少要因はシステムセンターの敷金支払、国債購入等によるものです。財務活動の結果減少した資金は121百万円でありま

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	当中間連結会計期間 (平成16年4月1日～ 平成16年9月30日)	前連結会計年度 (平成15年4月1日～ 平成16年3月31日)
売上高	10,399,952	12,570,811	20,833,189
売上原価	7,712,232	9,533,911	15,327,721
売上総利益	2,687,720	3,036,900	5,505,467
販売費及び一般管理費	1,708,494	1,622,679	3,302,904
営業利益	979,225	1,414,220	2,202,563
営業外収益	24,082	18,458	26,936
営業外費用	860	775	1,917
経常利益	1,002,447	1,431,903	2,227,581
特別利益	1,444	254,853	2,182
特別損失	463,215	447,738	1,903,163
税金等調整前中間(当期)純利益	540,677	1,239,018	326,600
法人税、住民税及び事業税	333,981	514,185	486,973
法人税等調整額	△177,365	△42,773	△408,631
中間(当期)純利益	384,061	767,606	248,259

## 中間連結剰余金計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	当中間連結会計期間 (平成16年4月1日～ 平成16年9月30日)	前連結会計年度 (平成15年4月1日～ 平成16年3月31日)
<b>■ 資本剰余金の部</b>			
資本剰余金期首残高	1,461,277	1,461,277	1,461,277
資本剰余金中間期末(期末)残高	1,461,277	1,461,277	1,461,277
<b>■ 利益剰余金の部</b>			
利益剰余金期首残高	4,332,564	4,430,578	4,332,564
利益剰余金増加高	384,061	767,606	248,259
利益剰余金減少高	150,245	139,300	150,245
利益剰余金中間期末(期末)残高	4,566,381	5,058,885	4,430,578

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	当中間連結会計期間 (平成16年4月1日～ 平成16年9月30日)	前連結会計年度 (平成15年4月1日～ 平成16年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	505,944	771,351	868,744
投資活動によるキャッシュ・フロー	△164,375	△888,915	△286,149
財務活動によるキャッシュ・フロー	△121,485	△121,485	△121,485
現金及び現金同等物の増減額	220,083	△239,049	461,110
現金及び現金同等物の期首残高	4,524,734	4,985,844	4,524,734
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	4,744,818	4,746,794	4,985,844

# Non-Consolidated Financial Statements

## 個別財務諸表

### 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前中間会計期間末 (平成15年9月30日現在)	当中間会計期間末 (平成16年9月30日現在)	前事業年度末 (平成16年3月31日現在)
<b>■ 資産の部</b>			
流動資産	8,253,221	11,166,848	8,940,248
現金及び預金	3,979,210	3,795,827	4,144,612
受取手形及び売掛金	3,131,303	5,043,329	3,302,262
有価証券	—	400,036	—
たな卸資産	543,344	1,253,275	769,414
その他	599,363	674,379	723,959
固定資産	5,351,886	5,231,940	5,153,297
有形固定資産	1,451,910	1,183,671	1,362,152
無形固定資産	1,111,298	516,942	839,750
投資その他の資産	2,788,677	3,531,325	2,951,393
資産合計	13,605,108	16,398,788	14,093,546
<b>■ 負債の部</b>			
流動負債	3,543,401	6,204,206	4,066,959
買掛金	1,990,097	4,144,966	2,211,357
未払法人税等	204,862	414,500	282,375
その他	1,348,441	1,644,739	1,573,225
固定負債	3,017,853	2,854,381	3,069,699
退職給付引当金	2,716,961	2,612,326	2,740,089
その他	300,892	242,055	329,610
負債合計	6,561,255	9,058,588	7,136,659
<b>■ 資本の部</b>			
資本金	1,367,687	1,367,687	1,367,687
資本剰余金	1,461,277	1,461,277	1,461,277
資本準備金	1,461,277	1,461,277	1,461,277
利益剰余金	4,153,805	4,424,796	3,942,328
利益準備金	135,000	135,000	135,000
任意積立金	2,600,000	2,600,000	2,600,000
中間(当期)未処分利益	1,418,805	1,689,796	1,207,328
その他有価証券評価差額金	62,030	87,386	186,540
自己株式	△947	△947	△947
資本合計	7,043,852	7,340,199	6,956,887
負債及び資本合計	13,605,108	16,398,788	14,093,546

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。(以下、同様の表記)

### 中間損益計算書

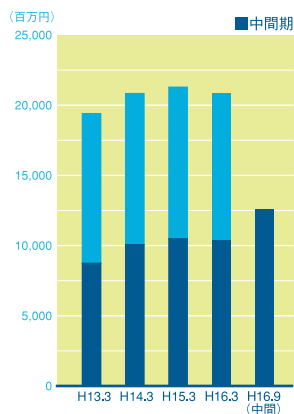
(単位：千円)

	前中間会計期間 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	当中間会計期間 (平成16年4月1日～ 平成16年9月30日)	前事業年度 (平成15年4月1日～ 平成16年3月31日)
売上高	9,614,748	11,682,258	19,311,871
売上原価	7,293,412	9,085,315	14,481,967
売上総利益	2,321,335	2,596,942	4,829,904
販売費及び一般管理費	1,525,630	1,451,615	2,939,992
営業利益	795,704	1,145,326	1,889,911
営業外収益	34,276	29,078	39,507
営業外費用	860	727	1,917
経常利益	829,120	1,173,678	1,927,501
特別利益	2,199	254,853	2,179
特別損失	459,662	447,699	1,899,610
税引前中間(当期)純利益	371,658	980,832	30,071
法人税、住民税及び事業税	210,067	382,245	302,067
法人税等調整額	△130,485	△14,460	△352,596
中間(当期)純利益	292,076	613,047	80,600
前期繰越利益	1,126,728	1,076,748	1,126,728
中間(当期)未処分利益	1,418,805	1,689,796	1,207,328

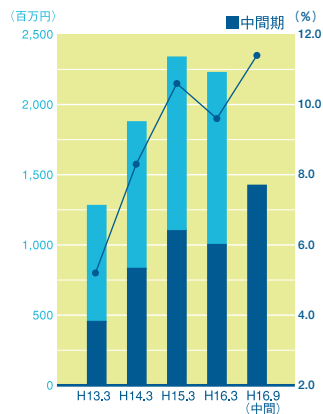
# Consolidated Financial Highlights

## 連結財務ハイライト

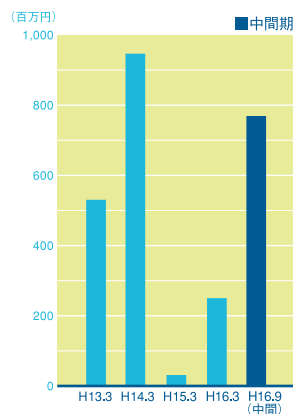
### ■ 売上高



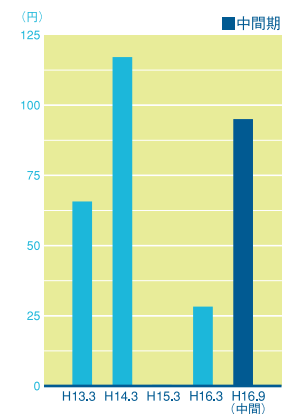
### ■ 経常利益 ● 売上高経常利益率(中間)



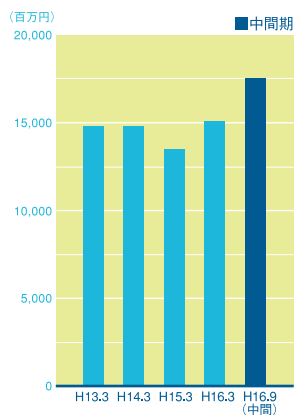
### ■ 当期純利益



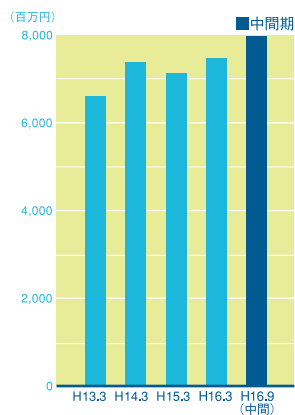
### ■ 1株当たり当期純利益



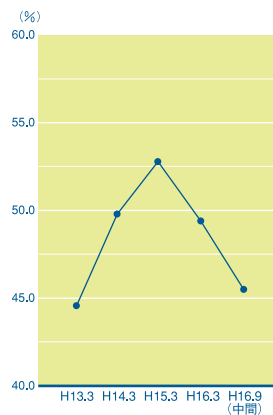
### ■ 総資産



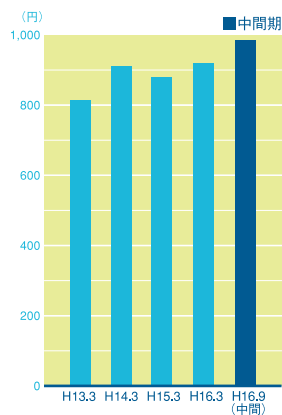
### ■ 株主資本



### ● 株主資本比率



### ■ 1株当たり株主資本



# Corporate Profile

## 会社概況

### 会社の概要 (平成16年9月30日現在)

商号	株式会社セゾン情報システムズ SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.
設立年月日	昭和45年9月1日
資本金	1,367,687,500円
従業員数	570名
本店	東京都豊島区池袋二丁目65番18号 Tel : 03 (3988) 2020 (代表)

### 役員構成 (平成16年10月15日現在)

代表取締役会長	倉 一 夫	取締役	山本 敏 晴 *
代表取締役社長	宮 野 隆	取締役	安 達 一 彦 *
常務取締役	田 辺 圭 佑	取締役	八 田 茂 茂 *
取締役	岸 泰 介	常勤監査役	国 分 健 義
取締役	野 津 浩 生	常勤監査役	大 竹 政 義
取締役	久保田 雅 久	監査役	山 本 純 一 *
取締役	西 川 信 次	監査役	三 木 茂 *
取締役	笠 井 誠		
取締役	菅 崎 悟	*非常勤	
取締役相談役	古 田 敏 之		

### 子会社の状況 (平成16年9月30日現在)

会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
株式会社流通情報ソリューションズ	90,000千円	100%	システム構築・運用事業
株式会社ファシリティエキスパートサービスズ	60,000千円	100%	システム構築・運用事業



# Stock Information

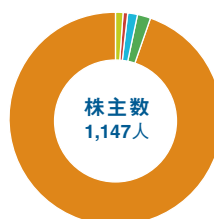
## 株式情報 (平成16年9月30日現在)

### 株式の状況

発行する株式の総数 30,000,000 株  
 発行済株式総数 8,100,000 株  
 株主数 1,147 名  
 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	議決権比率(%)
株式会社クレディセゾン	3,794	46.85
MAC Small Cap 投資事業組合	550	6.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	319	3.94
セゾン情報システムズ社員持株会	308	3.80
ザバンクオブニューヨークトリートリー ジャスダックアカウント	280	3.46
株式会社インテリジェントウェイブ	250	3.09
バンクオブニューヨークフォーゴールドマンサックス インターナショナル (エクイティ)	160	1.98
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	142	1.76
株式会社みずほ銀行	98	1.21
クレディットバンク エスエイエルセンプルジョワーズ-シリウス ファンド-ジャパン オパチュニティズ サブ ファンド	80	0.99

### 所有者別株式分布状況



株主数	(%)	(名)
金融機関	1.13	13
証券会社	0.70	8
その他の法人	1.48	17
外国法人等	2.01	23
個人その他	94.68	1,086



株式数	(%)	(千株)
金融機関	9.60	777
証券会社	0.07	5
その他の法人	58.28	4,720
外国法人等	11.15	903
個人その他	20.90	1,693

### 株主メモ

決算期 3月31日  
 定時株主総会 4月1日から3ヶ月以内  
 配当金受領者確定日 3月31日および中間配当金の支払を行う場合は9月30日とします。  
 名義書換停止期間 毎年4月1日から4月30日までは名義書換を停止いたします。  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

1単元の株式数 100株  
 公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞  
 名義書換代理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel: 03(5213)5213

同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店、  
 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

日本証券業協会は、当社株式をジャスダック市場の「制度信用銘柄」に選定しました。(平成16年9月1日付)

当社の発行する株券は、(株)ジャスダック証券取引所が開設する取引所有価証券市場の上場有価証券として上場する予定です。(平成16年12月初旬)

# Shareholder Relations

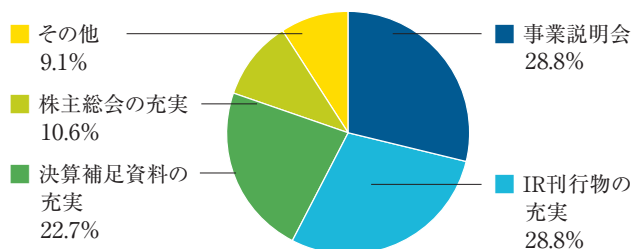
## 第35期事業報告書同封アンケート回答結果

第35期事業報告書アンケートにご回答いただきありがとうございました。

この場を借りてお礼申し上げます。

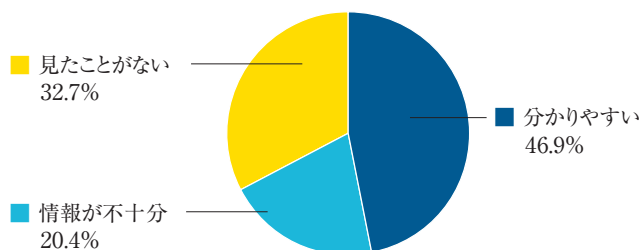
前回(6月)実施のアンケート結果の一部をご紹介します。

### 1. 今後のIR活動で希望するもの。(複数回答)



IR活動に対して、「事業説明会」、「IR刊行物の充実」、「決算補足資料の充実」が要望として多く挙げられました。今後も積極的かつわかりやすい事業、財務の説明に努めてまいります。

### 2. 当社コーポレートサイトリニューアルについて



サイトリニューアルに対して半数近くの皆様にご評価をいただきましてありがとうございます。まだ、ご覧いただいている方のために、次ページにて当社コーポレートサイトについてご紹介させていただきます。

今回もアンケートはがきを同封させていただいております。

株主の皆様の貴重なご意見を今後のIR活動に活かしていきたいと考えております。

ご協力のほどお願い申し上げます。

# Home Page Information

ホームページのご案内 >>> <http://home.saison.co.jp/SIS/>

株主の皆様にも有効にご活用いただけるよう、充実した情報提供に努めております。

ホームページを株主の皆様とのコミュニケーションの場と捉え、

今後も利便性の向上に取り組んでまいります。

## ● トップページ



### ● プレスリリース

当社発表文書がご覧いただけます。



### ● IR情報

年度別・種類別に検索が可能な各種 IR ツール、IR カレンダー等がご覧いただけます。



IR ツール

- ・決算短信
- ・四半期財務・業績の概況
- ・有価証券報告書
- ・事業報告書
- ・アニュアルレポート
- ・インベスターズガイド
- ・決算説明会資料
- ・Financial Data



IR カレンダー

### ● 製品・サービス

「HULFT」「Bulas」等の当社製品・サービスを紹介しています。



SAISON  
INFORMATION  
SYSTEMS  
CO.,LTD.

株式会社 **セゾン情報システムズ**

〒171-0014 東京都豊島区池袋二丁目65番18号

TEL : 03-3988-2020 (代表)

<http://home.saison.co.jp/SIS/>

 **100** この中間事業報告書は再生紙を使用しております。